

V. 特記事項

1. 全学生参加の卒業研究発表会

4年間の学びの成果を卒業研究として成果物にまとめて発表することを全学生に求めており、そのために「卒業研究」（子ども学科は「子ども学卒業研究」）を必修科目としている。学生は少人数教育のもと、ゼミ担当教員の専門的な指導を受け、自主的かつ積極的に研究を進め、成果物を提出する。成果物は抄録集・ポスター集としてまとめている。

2月に学科別に実施する「卒業研究発表会」では、全4年生が発表の機会を有し、4年間の学びの成果を発揮する。1～3年生も全員参加必須（令和2（2020）年度はオンライン併用）としており、複数の先輩の発表を見聞きすることで、自身の卒業年次の学びと卒業時の姿をイメージさせる機会としている。

学生の主体的な学修を促し、客観的で公平な成績評価をするためのツールとして、令和3（2021）年度から、「卒業研究ルーブリック」「チェックリスト」の運用を開始している。

2. 地域における教育実践活動

3年生ゼミ（子ども学科「子ども学総合演習」、スポーツ教育学科「総合演習」）の授業の一環で、自治体や市民と連携した地域密着型の活動に取り組む事例が増えている。これらは環びわ湖大学・地域コンソーシアムから助成を受けた取り組みであり、令和3（2021）年度は以下のテーマで実施が進んでいる。

- ・大学生による子どもたちへの性犯罪予防の SNS の使い方啓発活動
- ・就学前児童から科学の面白さを体感させる実験・ものづくりプロジェクト
- ・東近江市中心市街地活性化に関する実証的研究
- ・子どもの手がた足がたを用いたオリジナルグッズづくりを通して、楽しもう、知ろう、広めようオレンジリボン運動 × SDG s
- ・ポストコロナにおける大学生によるカナヅチ児童を対象とした水泳教室
～運動介入による小大連携への模索～

いずれも地域の課題解決を目指した地域貢献の側面と、2年間の学びを活かした活動を通じ、問題解決力・主体性・コミュニケーション力等の力を育成する教育的実践の側面を有している。

このほか、外部団体と連携して、競技人口が減少しているスポーツの競技人口増に取り組むゼミでは、所属学生の調査・分析と学生の視点からの提案が、指導教員の調査結果とあわせ、令和3（2021）年度中に報告書として刊行される予定である。

地元滋賀県の出身者が入学生の約8割を占め、滋賀県で就職を希望する学生が多いなか、人々の生活文化、風景、産品などの魅力に出会い、交流を深めることで、地元を知り、滋賀に愛着を持って就職する卒業生が1人でも増えることは、建学の精神を具現化する上で重要な取り組みである。